

道路と下水と木炭に就いての一考察

原 田 東 平

戦争も愈々短期長期戦と云ふことを唱へられて来た即ち武力戦を短的に完了せしめ經濟戦を長期に克ち抜かうとする様相が世界の各戦局に於て見受けられる第一線も國內戦線も今日に於てこそ一丸となつて猛進すべき秋であると思ふ。然るに此の時、國內に於ては輸送力の減退特に船舶輸送力の逼迫、鐵道輸送力の行詰りを高唱して國民の無用旅行を自肅せよと警鐘を亂打して居る、特に石炭の輸送に於ては從來船腹受渡の設備を有して居た所の大口需要家と云ふか重工業其他石炭を多量に消費するところの各工場は船腹の不足より勢ひ鐵道輸送に據らざるを得ざる現狀に立至りたる爲、荷役設備貯炭設備等の不完全より石炭貨車の滞留久しきに互る爲貨車廻り不圓滑となり、爲に一層貨物の滞貨を來す結果となつて居るのが輸送力減退の一原因を爲して居るのでは無いかと思はれる。此の鐵道輸送力の補強を爲すものに道路輸送が在る

然るに道路輸送はトラックの燃料關係にて往年の如き活況見られない甚だ不可思議な狀態を呈して居る、成程人は燃料が無い車が無いと言ひに片付けて終ふが此の決戰體制下に於てこそ國內戦線の血脈たるべき道路輸送力を最大限に活かすべきであると思ふ。即ち此の際過激の様ではあるが勝たんが爲には速かに國民の頭を國內戦士の頭に切換へせしめる、其の一つの方法としては鐵道に於て石炭輸送週間を隨時決定し其の間は一般旅客列車は全國的に全廢する、而して何うしても已むを得ざる者の旅行は軍務及官公署の公用者並に葬祭等にて歸郷する者夫れも所轄警察官署の證明書を有する者に限り輸送する、斯様にすれば自然と國民の心も緊り一週間の中二日の商賣後は閑になる連中の物見遊山も、彼等自身中止せざるを得なくなると、同時に戦争の何たるかを味識することと思ふ、今日では戦争は如何にして起つたかは知つて居て

も戦争の何たるかを識らぬ者の方が多いのでは無いかと思ふ、夫れは闇が公然と爲されて居る現状よりしても推知し得る、トラックも其の輸送物資を指定して個人交誼に依る荷物等を除外し重要物資のみを輸送せしむる時は自づと配車の都合もうまく行くのでは無いかと思ふ。唯問題は燃料である、其の燃料で果然下水が問題となつて来る。實は數年前岐阜市の安部水道部長から下水處理に依るメタン瓦斯の發生を伺ひ非常に頼もしく思つて居た、夫れが今日では結實して一日七〇〇立方米の瓦斯を供給して居る、設備は極めて簡單である。同氏は昭和三年頃より研究を始め同十年頃より試験設備に入り今日では立派に完成して居る、人口十萬そこゝの岐阜市の現在に於てすら一日僅に二〇〇〇立方米位は發生せしむることが出来るとの事だ。何と此の自動車燃料不足の折柄福音では無いか、近府縣の各都市が見學には來るが仲々實行はせぬ様だ、名古屋市がヤット豫算を取つた位のもので、まだ土木技術者の斯の方面に對する科學的研究が足りないことを立證して居る様だ。決戦下の目下は實行あるのみ、之を假に全國の都市が始めて居たとしたら自動車燃料の心配は入らなかつたかも知れぬ、又メタン瓦斯は既に天然瓦斯と同様氣化して居るので自動車器材の消耗も少なく、木炭やキュライトの様な大袈裟な改装もせず極く簡單に、資材も少量に濟んだ事と思はれる、夫れに力は到底他の代燃車の遠く及ばざる所である。但し缺點はポンペを多數

積載することが出来ないのが残念である。瓦斯の詰込も木炭やキュライトの比では無い。決して今からでも遅くは無い。全國重要幹線道路に所在する都市は下水處理に因るメタン瓦斯の發生の設備を急設し刻下喫緊の瓦斯燃料増強に邁進すべきである。此のメタン瓦斯が自動車燃料として餘る時は各種工場に廻しても一向差支へない、寧ろ國策に副ふものである、此の事は目下資材の窮屈な時ではあるが國も大いに助成せなければならぬ。そして速かに戦争に勝つことである、又此の下水處理は窒素肥料を多量に副産するを以て肥料國策にも適ふ譯である、従つて下水處理に因るメタン瓦斯發生を國策として政府に於て指導助成すべき大事な時は今である。そして國內戰線の輸送力増強を企圖すべき秋である。此の下水處理と同時に塵芥焼却と云ふことが大都市では問題である塵芥のみを自己の可燃性質物の力を借りて焼却するときは湿度が高い爲完全燃焼をしない、之に一割程度の石炭を混入する時は完全燃焼して立派な青里肥料が取れる、之も土木屋の研究實行すべき事柄だと思ふ。

メタン瓦斯に連れて一般瓦斯の問題であるが、瓦斯消費規制を強化せられて居る今日一般家庭では毎日の食糧の煮炊きにも事缺いて居ることは戦時下已むを得ぬとしても、自動車燃料に充てる木炭一般家庭用木炭と木炭の増産は年中喧傳されては居るが、木炭の廻り入手率が悪い、之は輸送力に大いに關係を有すること勿

論である。然らば全國の山々で此の大量の木炭を焼いて山に滞貨

させる事を思へば少々位高は高く共之を生木の儘消耗都市に降ろし一定の箇所に輪形竈を設け集團的に機械化焼成を爲せば石炭配給の如く容器回収買が出来て努力に於ても非常に經濟に上ると

思ふと、同時に此の生木を焼く時に起る瓦斯を一個所に収集すれば工場の瓦斯燃料も亦家庭の瓦斯燃料も雜作なく解消するのでは無いかと思ふ。現在山で此の瓦斯を只大自然の中に無駄に放散して居ることは資源愛護活用の今日相濟まない様な氣がする。夫れは木炭を山から輸送するより生木を輸送する方が幾倍かの輸送力を要するかも知れぬが、木炭の現地配給とか瓦斯の發生を考慮すれば何でも無いと思ふ。夫れに木炭焼成に依り生ずる瓦斯に依り

自動車を進かせば其の位の事は何でも無い、自動車の潤滑油に於てはガソリンよりは瓦斯の方が少量で濟むことは油がガソリンに依つて溶解されぬ故機械油の消費に於て非常に經濟的である。此の事を思へば瓦斯は氧化したものを使用すべきが先決問題だと思ふ、斯くの如く下水処理、塵芥處理に依る瓦斯、木炭一括焼成に依る瓦斯を輸送力増強、工場生産力増強に充當してこそ決戰體制

下國內戦線強化が可能であると信ずる。

鐵道輸送力行詰りの今日難生瓦斯に依る道路輸送力の振興は一刻も忽せになし得ぬことである。又木炭一括焼成に依り生ずる木

炭も相當副産せられるものと思はれるから之を又道路々面の

修理用に充當するに於ては尙妙である。

現今は何も彼も統制流行りであるが土木事業は往時より一元統

制の下に施行せられて居る、即ち勞務者の使用にしろ器具機械の利用にしろ、工費用資材にしろ、何も彼も一元統制の下に運営せられて居る。何も更めて統制の要はない、依つて統制に要する力を土木行政革新の方面に用ひ、他に率先して戦勝街道に指導せなければならぬ夫れは統制の先覺者なるが故である。

此處に於て無限の資源を保有する大自然の土と緑道の關係に在る土木技術者は同時に科學者となつて國內資源の活用を現下の大任務として速に爲さねばならぬ、此の際一人でも多くの安倍源

三郎氏の現出する事を希望して已まぬ。(三月二十五日)

